

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホーム あかしあ ゆったり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501639-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人がゆったりと過ごせホーム内も明るい。ホーム横の花壇では色とりどりの花が咲いており散歩の際には楽しむ事ができる。ホーム裏の菜園では野菜が実り一緒に収穫を楽しんだり食卓に彩を添えたりしている。近隣の方々との交流も増えてきており、町内会やホームの行事を通して行き来出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<本人と共に支え合う家族との関係>
「あかしあ便り」の定期的な発行や家族の来訪時等に健康状態の変化、日常生活の様子を情報提供していると共に意向や要望等について話し合い、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。また、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら職員間で方針を共有し、家族と共に見取りを実践している。

<地域とのつきあい>
新築移転して2年が経過し、町内会の運動会参加や冬のキャンドル祭りへの協力、地域の子供を持つお母さん方が開催するハロウィンや七夕等の行事に協力するなど地域の人々との交流・連携に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲げ職員全員で共有し毎日のケアに活かし実践している	事業所独自の理念をつくりあげ、ミーティングやモニタリングで話し合い、職員間で共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方々と会議や行事を通して地域の一員として生活出来るよう交流をしている	新築移転して2年が経過し、町内会の運動会参加や冬のキャンドル祭りへの協力、地域の子供を持つお母さん方が開催するハロウィンや七夕等の行事に協力するなど地域の人々との交流・連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議や地域の方々が施設見学に来た際には意見交換や助言の場を持てるようにしている又職員の勉強会に町内会の方々の参加も募っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での普段の様子や利用者の状況など細かく報告しており各立場からの意見などいただき参考にしておりサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、利用状況や事業所の行事年間計画等具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは各会議等で連絡を取り合いながら協力体制を取れるよう取り組んでいる	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中では職員全員が意識しており身体拘束をしないケアは徹底されている又機会あるごとに拘束に関する話し合いをカンファレンスなどで行っている	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を高年齢者虐待防止の研修会参加等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の講習会などに参加し勉強会を行い虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用する必要がないため支援はしていないが制度は理解しており必要性はその都度話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約その他その都度不安もたれないようわかり易く説明しており納得できるよう支援している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月のお便り等でご本人の様子やホームの行事などの報告をしておりご家族からの意見を聞く機会を設けている又ご意見を運営に反映している	「あかしあ便り」の定期的な発行や家族の来訪時等に健康状態の変化、日常生活の様子を情報提供していると共に意向や要望等について話し合い、本人を支えていく関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の話し合いやカンファレンスなどで職員の意見をや提案を聞く機会を設けており運営に反映させている	日常業務やミーティングやカンファレンス等で職員の意見や要望等を聞く機会を設け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による定期的な職員の評価などにより個人の状況を代表者に報告している又個人個人に合わせ働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数経験などを考慮しながら各種の研修に参加してもらっており学んだ事は実践し他職員に教えてもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区や市の管理者会議の参加、法人内の管理者会議などで勉強会、意見交換などを実施しサービスの向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族ご本人から色々なご意見等をいただき安心して生活出来るよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからも引き続きご本人やご家族との関係を密にし意見など言いやすい環境作りに努め関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との関係を深めその時必要な支援を提供しており他のサービスも利用できるか検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、料理など出来ることはお手伝いしていただいている野菜の収穫など一緒にしていただいたりわからない事など教えていただけるような関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より連絡を取り合いながら家族と一緒に本人を支える体制をとるよう職員で話し合いながら実践している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろんの事親戚、兄弟、友人との交流も途切れないよう支援している	町内会の運動会等の行事参加や散歩、買い物や馴染みの美容室への送迎等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を把握し穏やかに過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では本人が亡くなられサービスが終了するケースが増えてきておりその後のフォローが必要なくなること多いが家族の必要に応じる体制は出来ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の話し合いやカンファレンス等で本人の生活ぶり希望や意向など話し合い本人本位に検討している	センター方式の活用や一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方など職員全員で把握し話し合う場をもっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活のケース記録を読んだり職員同士気付きなど意見を出し話合っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療的な方面、ご家族の希望、ホームでの本人の生活ぶりなどから現状に即した介護計画を作成し実践、経過観察している	カンファレンス、モニタリングを通じて状態変化時に対応した介護計画の見直しをしている。また、家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、職員の意見やアイディアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じ定期的な介護計画の見直しを実施している毎月のカンファレンスでよく話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応し柔軟なサービスに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加、近隣住民との交流により豊かに生活できている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得できる医療機関での受診を支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度来訪する訪看には近況など説明し本人の状況を把握できるよう援助している往診の担当医にも細かく状況を説明している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時本人の詳しい情報を伝えスムーズに治療できるよう支援している。退院後も相談にのってもらえるよう支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向はなかなか聞き取る事は難しい面があるが、担当医、家族と十分話し合いながら支援している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体の救命救急を年に1度実施しており実践力を身につけている又急変時の対応などは常に職員間で話し合っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年3回実施しており町内会との話し合いも何度となく実施しているが地震、水害に関しては町内会全体が被害にあうため具体的には協力体制は築けていない	年3回、避難訓練を実施し、火災通報装置やスプリンクラー、報知器等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、自然災害の地域との協力体制構築を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの入居者に合わせ対応し日々の生活を支援している	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活はあくまでも本人主体で生活出来るよう職員全員で支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりのペースに合わせ生活していただいている又ご自分の希望を訴えずらい方に対しては訴えやすいような環境作りをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせ身だしなみ整えることが出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けなど出来ることは手伝っていただき一緒に準備している。週1度希望をお聞きし好みのメニューにし提供している	食事が楽しみなものになるよう、週一度希望のメニューを提供している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、菜園で収穫した野菜の調理や食事の下ごしらえ、後片付け等職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など職員全員で把握し脱水や栄養不良にならないよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア一人一人にあった支援を実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけご自分からトイレに行けるよう支援している。定期的な誘導などを取り入れ最期までトイレに行けるよう支援している	一人ひとりの力や排泄パターンを職員間で共有し、声掛けや誘導等を工夫しながらトイレでの排泄や自立へ向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分量、運動などで便秘にならないよう支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のその日の体調、希望など考慮し本人に沿った入浴支援を実施している	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援している。また、本人に沿って柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて休息していただいている。安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情報のファイルを作りどんな薬をどのくらい飲んでいるか職員で把握している。個人に合わせた服薬方法で支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活動的に生活出来るよう毎日の生活の支援をしている。本人の力を活かした生活が出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望をお聞きし散歩に出かけたり戸外での行事に参加したりしている。家族からの希望があれば出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、町内会の運動会や冬のキャンドル祭り参加、散歩や買物、野外でのバーベキュー行事など戸外に出かけられるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じ支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に連絡できるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に合わせた環境作りをしている。不快にならないよう安心して穏やかに過ごせるよう環境を整えている	敷地内には、花壇や菜園が作られ憩いの場となっていると共にプランターで花がいたる場所に飾られたり、菜園で茄子やピーマン、キュウリ等の野菜が栽培され、季節感や生活感を採り入れている。また、共用空間は、清潔感が漂い、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を考慮し思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族と相談しながら本人が安心して生活出来るような部屋作りを考慮している	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具、仏壇等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の変化によるダメージを出来るだけ少なくするための工夫を職員全員で日々検討しながら支援している		

目標達成計画

作成日：平成 26年 10 月 17 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	28	毎日のホームでの生活の支援におわれ、既存のサービス以外の提供がなかなか出来ていない。	日々の生活に余裕がもて、ボランティアなども取り入れた柔軟性のある支援を提供できる。	職員の移動がなく業務にゆとりが出来るよう職員全員で話し合い働きやすい職場をめざす。 職員の心に余裕のもてる職場作りに取り組む。	2年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホーム あかしあ のんびり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan1=true&JigyosyoCd=0170501639-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在地域交流に力を入れており、町内会福祉部の方や民生委員の方に運営推進会議や事業所行事(バーベキューやクリスマス会など)に出席して頂いたり、こちらからも町内会行事(運動会やキャンドル祭りなど)に積極的に参加するようにしている。今年からだか七夕の際に、地域の子供達が歌を披露してくれて、おれにお菓子を配るなどの古くからある風習体験という形で交流が持てた。その他ボランティアによる定期的なミニコンサートの開催もしている。このような交流を通して、地域社会貢献や利用者のサービスの質の向上につながればと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の下、事業所の活動や町内行事等を通して積極的に地域との交流を持ち、また顧客に対してはより良いケアが行えるようにと日々ミーティングを重ね実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕には地域の子供達との交流、町内会の運動会への参加協力、中の島アイスクヤンドル祭りのキャンドル作りなど自主的な取り組み等利用者と共に行い、地域との交流の機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について地域の人々に向けての積極的な取り組みは行っていないが、入居者のご家族に向けては行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に事業所の活動報告を行っており、その後参加された方々との意見交換を得て、日々のサービスに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と随時連絡を取り合っており、入居の相談や困難事例、制度利用などの相談などのやり取りをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為やそもそもなぜ拘束が禁止されているのかを身体拘束が招く心身への影響なども踏まえて職員には説明、理解を促し日々のケアで取り組んでもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行われる外部研修や事業所勉強会を通じて高齢者虐待防止法などについて学ぶ機会を持っている。特に見過ごされがちな心理的虐待について日々のケアを振り返り、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や地域包括支援センターの職員から制度について学ぶ機会があり、また個々の必要性など関係者と話し合いができる体制は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と丁寧な説明により理解・納得が図れるよう努めている。その都度不安や疑問点がなにか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて相談や苦情申し立ての窓口を明記しており、ご家族が意見をできるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や業務の見直しや意見、提案を職員が話せる機会を別に会議の時間としてとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や能力に応じた昇給、賞与を行っている。現在は個々の能力向上とチームケアに力を入れ、お互い助け合い、協力し合い気持ちよく働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に日々の業務や内部研修の中で職員一人ひとりの力量に合わせ、必要な知識、技術を身につけてもらえるようにと努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に管理者が地区管理者連絡会へ参加し、意見交換や情報交換を経て、日々のサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係が築けるようにと面接を行うにあたっては、理解的態度の姿勢で望めるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に家族とも信頼関係が築けるようにと理解的態度の姿勢を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報収集を行った上で、検討会議を行い必要な支援計画を作成し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでも私たちは援助者ではなく支援者であるという考え方で、本人の自発性や能力を活かせるような機会、活動の場を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、本人の様子を手紙や電話などで伝え、ニーズに対する支援方法を一緒に考えてもらえるように努めている。外出の機会や病院受診などは、ご家族にも積極的に協力して頂くようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室への送迎や買い物支援など行っている。親戚や友人の面会も基本制限なくして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での関わり合いを大切にし、問題がない限りそっと見守るようにしている。孤立しがちな利用者に対しては職員が介入し関係づくりを支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の希望に応じ、可能な限りで相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で本人と定期的に面談を行い、生活の中のニーズを確認している。疎通の困難な方に対しては、思いをくみとり支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、その他関係機関から協力を得て、情報提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子や活動状況を記録に残し、職員は情報を共有。本人の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望や医師や看護師の意見などを踏まえ毎月のカンファレンスにてサービス評価、見直しを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に必要な情報を記入し、申し送りを行っている。記録は介護計画に沿ったものとなっているため見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書類の手続きや定期受診、個別の買い物などは基本本人やご家族にお願いしているが、その時々状況に応じて同行や代行なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園やお店などの地域資源の利用や、ボランティアによるミニコンサートの開催など協力して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向にそって、かかりつけ医への受診及び往診などの医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や当事業所の協力医療機関の看護師へ日常の変化などの気づきを伝え相談し、必要な対応や助言をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には頻繁に面会に伺うなどし不安の軽減を図っている。その都度、病院関係者と話をもち本人の状態や治療経過などを確認し退院調整を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主にサービスの開始時や本人の状態変化に合わせ説明や話し合いの場を持ち意向を確認している。できる限り本人や家族の意向に沿えるよう、医師や看護師との連携、職員のスキルの向上に力を入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命救急講習の実施。急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的に職員会議を通して確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の火災を想定した避難訓練と毎日の防火自主点検を実施。運営推進会議にて町内会の方々と話し合い、避難場所や協力できる事など確認している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定やマニュアルを作成し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活場面全てにおいて、本人の意向を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や対応を最優先とし、日々の業務や必要な支援を行うようにと努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの物や色を知り、毎日の服装と一緒に選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や好みに合わせ、調理、盛り付け、配膳、後片付けなど一緒に協力して行っている。楽しみや役割として定着している方も多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に必要な栄養や水分量を確保できるよう、個々の状態や力、習慣に応じて食事の時間や形態を変えるなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力や習慣に応じて必要な口腔ケアを行っている。個別に定期的な往診による歯科医の健診も受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り排泄はトイレで行えるように、尿意や便意の訴えができなくなった方に対して、定期的な誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜を中心に、朝食にヨーグルトを用意するなど食事の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて入浴支援を行っている。入浴時間に余裕を持たせているためゆっくりと入浴を楽しむ事ができるようになっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は本人の習慣や体調に合わせている。その状況に合わせて照明の明るさや室温などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の使用している薬について診察記録やお薬手帳などを確認し理解。症状の変化についても具体的に記録に残し職員や医師等と共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いや畑いじり、手作業やカルタとりなどの活動を通し、個々の生活歴や力を活かした役割や楽しみを感じられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって近所の散歩や買い物支援を行っている。年間行事の中で動物園や町内会の運動会への参加などもしている。また、ご家族との外出支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブルも考慮し、家族に説明同意の上、本人管理ができる範囲でお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持なども問題がなければ認めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心休まる空間にと玄関前や共有スペースに普段から花を飾ったりなどしている。小まめにフロアの清掃や換気を行なうなどし、居心地の良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファと簡易テーブルを置いており、個々の思い思いで利用できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、家具など用意して頂いている。入居時に本人が安心して過ごせるようにと使い慣れた物や思い出の品など持ち込んで頂くようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所などの入り口には大きな字で場所の表示をし、洗濯機の操作ボタンなどにも数字で押す順序を示したりなどして、利用者自身が確認や操作ができるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あかしあ のんびり館

作成日: 平成 26年 10月 17日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	12	社会的な課題にもなっている人材不足は、当事業所も例外ではなく、人材確保が大きな課題となっている。	人材確保	給与水準(時給。賞与、手当で)、労働条件(時間、業務)等の見直し。職場の働きやすい雰囲気作り(定期的な面談、業務や責任など負担の軽減)。結婚や出産、育児による休みと労働条件の緩和。	3年
2	13	職員育成について、認知症高齢者を相手に働く上で必要な知識、技術、価値観など身につくまでにはたくさんの時間や経験を要する。人材確保する上で現在は無資格、未経験者からでも確保し働きながら育てていく体制が必要と考えられるが整ってはいない。	職員育成の取り組み。体制作り。	個々の能力、経験に合わせた育成方法のマニュアルベース作り。評価。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。